

いしずえ

2020 2 月号

第628号 2020・2・1 〒166-0003 東京都杉並区高円寺南2-33-32 TEL 03-3314-5688 FAX 03-3314-8954

色鮮やかな世界

クラレチアン宣教会司祭 梅崎隆一

神父になったらずっと子どもと遊んで一生を過ごせると思っていたのですが、人生設計を間違っしてしまい、なかなか子どもと遊ぶ機会に恵まれません。今は一緒に住んでいる神父さんのご飯を作ることが最も重要な仕事になっていきます。

「歳をとると感動することが無くなっていく」と言われますが、私も今年で50歳、確かに感動することが少なくなりました。良いように言えば落ち着いてきた、悪く言えば生命力が減退したということになるでしょう。そのためでしょうが世界が色褪せ、白と黒だけで構成されていると錯覚することがあります。それに比べ、子どもは世界に対する新鮮な驚きがあつて、大人の私の世界観ではゴミであつても、子どもの世界観では宝物となる。ただ、しばらくしたら飽きてその辺にほったらかしにするのも早いのです。そんな彼らと共にいると世界の中にはいくつもの世界があることを教えてもらえます。モノトーンではなく、多くの色で彩られている、それが世界であると。大人になつても子どももの観ている世界を描くことができる人は人生を色

彩豊かなものにできるのではないかと思います。そこでたまに絵本などを読んで参考にさせてもらっています。「かいじゅうたちのいるところ」という絵本では、子どもとお母さんが衝突して、子どもが自分の部屋に閉じこもり、そこから長い時間旅をしてかいじゅうのいるところに行き、かいじゅうたちの王様になります。しかし引き留めるかいじゅうたちを背にし、長い旅をして自分の部屋に帰ってきます。その部屋の机の上には湯気が立つ温かいスープが置かれています。子どもにとつて不安な時間は長く感じるもので、冒険の旅に出かけるぐらいの危機的状況です。しかし、大人にとつてはほんの短い些細なことには過ぎないと感じてしまいます。最近私の毎日の時間の流れ方がずいぶん早く、単調になりました。信仰を語るためには世界観を日々更新しなければならぬのですから、子どもから世界に対する開かれた心や驚き、これから人生が始まるという朝焼けの気持ちをつけて欲しいと思つています。現在のところ子どもたちと遊ぶことができる場所は高円寺教会ぐらいのものです。